



“ムラノガラス”はベネチアンガラスの別称です。これは、一般的に“ベネチアンガラス”と総称されるガラスやガラス製品が実は、ヴェネチアから約1.5kmのムラノ島で開発され、この島で伝統的に作られてきたことに由来します。日本では“ベネチアンガラス”に馴染みがありますが、最近では中国製のガラスを使ったり、中国で完成したガラス製品がヴェネチアのショップで販売されているような状況から、イタリアでは“本物”の“ベネチアンガラス”を区別的に“ムラノガラス”と呼ぶことがもつぱらのようです。



ムラノガラスの歴史は、都市国家としてイスラムガラスの交易を独占していたヴェネチア共和国で11世紀頃に始まります。当時としては画期的な、透明感があり純粋なガラスがムラノ島で開発されました。その後13世紀末に、ベネチアンガラスの製造技術の流出を恐れたヴェネチア共和国が“マエストロ”と呼ばれるガラス職人を家族まで含めてムラノ島に移住させたことにより、ムラノ島でその製造技術が排他的に継承され、ベネチアンガラスの“メッカ”となりました。

ムラノガラスは16世紀頃に発明されたクリスタルガラスなどとは違って、鉛を含まないソーダ石灰ガラスです。これに金属酸化物を混ぜることによりあらゆる色が表現できると言われています。クリスタルガラスなどとは違って、鉛を含まないソーダ石灰ガラスです。これに金属酸化物を混ぜることによりあらゆる色が表現できると言われています。クリスタルガラスとは異なり、穏やかで温かみのある透明感と極めて多彩な色はムラノガラス独特のもです。ちなみにワイン通の間では、この繊細なお酒に適したワイングラスの素材はムラノガラスであると言われていているようです。

DNSVグラスウェアにも多く使われている“ムリネ”(ミルフィオリ)は、ベネチアンガラスの代表的なモザイクガラス技法で作られています。どこを切っても同じ模様が現れる“金太郎あめ”状のガラス棒材をカットしてプレートなどに配し溶融させます。



DNSV(デザイン・ノンソロヴェートロ)のアトリエはヴェネチアの西約35kmの古都パドバにあります。このアトリエでキアラ・ファジンは自身の“作品”と、ギャラリー坂木から皆様にお届けするDNSV商品の製作を行っています。豊富な種類のムラノガラスやムリネを使って、ユニークなデザインと色づかいの“DNSV”ハンドメイドグラスウェアがここで生み出されます。

アトリエにはショールームが併設されており、“作品”やプレート、ランプ、アクセサリーのほかキアラ・ファジンが製作したデザイン性の高いガラスの一枚ドア、一品製作のパーティーションなども展示されています。

